

編輯室の内外

春將に逝かむとするとき、道路改良の主張者、内務省政務次官武藤金吉氏長逝の報に接し、我等同人をして著しく失望せしめた、政務次官室での氣焔、今頃鐵道敷設を八ヶ間敷言つてるときで無いのに、朝野兩黨の幹部連がヨイシヨ／＼と鐵道省に詰めかけてゐるのは寧ろ憐れた、と言つた調子。

憲政會には道路政策は無かつた、いかにも時代遅れの政黨だと喝破したのも君であつた、だから産業道路の助勢は吾が黨の手に依つて樹立するのぢや、三千里の内千五百里を十年間もかゝつて改良するなんて餘り悠長すぎるぢやないか、十年の後には飛

行機運送が行はれる、三千里を五六年で改良することは出来ないかと言つたやうなきびきびした意見、路政の局に在るものは隨喜の涙を滂して賛成したが、解散によつて産業道路助勢の豫算は不成立、通常議會を俟たればならぬこと、爲つて、特別議會は誤駄返してゐるとき、氏は落花に誘はれて不歸の旅に就いた、痛ましきも痛ましい。

特別議會も随分騒いたが、ドーやら梟が付きそ、うだ、道路の改良費なんて、問題に爲つてゐないと思つてゐたら、御大典のお蔭で、京都と宇治山田兩市の道路を改良する爲に二十五萬八千圓の豫算が成立するさうだ、是れ位ならモ一少し大きな豫算を編制して貰ひたかつた、と言ふのは、何でも豫算編制の當時、京都から伏見桃山御陵に

通ずる國道を改修したら、國庫から補助してやることに閣議で決定したと、京都府に通知迄しておきながら、最後になつて金の苦面が附かないと言ふので沙汰止に爲つてゐる、さうだ、御大典のことだ、是も何さか心配してやつては。

編輯室を訪れて呉れる地方長官は尠くない、先達のことだ、山形縣知事の篠原英太郎さんが來訪された、例の瀟洒なスタイルは内務省時代と少しも變つてゐない、都市の建設事務に専門であつた氏が、山形のお山奥に行つて何か大きな仕事でもあるのかと尋ねたら、理想的に建設せなければならぬ都市も無いので、矢張り山間道路の改良に骨を折つてゐるよと言ふ挨拶。

俺の所の道路は随分立派なものもあるが

夫れを連絡してゐる橋は十年も二十年も昔に架けた木橋ばかりでドーも不十分だ、夫れで以前から架橋費の繼續費豫算があつたが、一年に一橋架ける位ではトナモ間に合はない、夫れに産業道路も改修せなければならぬことを爲つたので、以前の繼續費を廢止して新に九百五十二萬圓の繼續費を設定した、是で昭和十二年度になるに縣下の道路は面目を一新する筈だと言ふ威勢の可い話。

モ一いつ威勢の可い話は自作農の創定談夫れはコードだ、曩年の軍縮で陸軍の糧秣廠が廢止された、縣は其の敷地の拂下げを受けて其處を開拓する計畫を樹てた、さころで誰に開拓した方が農村の發展策になるだらうと考へたが、地方農村の實情は常に

編輯室の内外

次男坊以下の男が働くにも仕事がない有様で、是等の運中が農村生活の不平を唱へて小作問題などの導火線となるのだから、此運中に開拓させたら不平も起るまいと思つて、一家に五町歩を耕作させてやる勘定で希望者を募集したら應募者は随分多かつたが、其の中で獨身者が十二人、是等の運中には妻君を持たさなければ腰が落附かないと視たから、十二人の爲に出雲の神様の代理をやつて一度に其の披露宴を開いた、十二夫婦は今も汗みざるに爲つて開拓事業に従事して呉れてゐる、其の内に子供は生れるだらうと楽しい家庭も作つて呉れるだらう、五六年も経てば土地は十二夫婦の所有に歸するであらう、結婚が人の半生を支配する大切なものだとすると、其の結婚が自

作農創定の爲だとしたら是等の運中は僕の意を酌むで、農村振興に盡して呉れると思ふと十二夫婦は我が子のやうな感がある、ドーダ是が眞の農村振興策だよと、其の氣焔當ることが出来なかつた、大丈夫大いにやつて呉れ(た)

本號定價 五拾錢
一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省内
發行所 社團 道路 改良 會
發行兼 編輯者 上山 陸 造
東京市小石川區久堅町一〇八
印刷所 共同印刷株式會社
印刷者 君 島 潔